

第16回陸前高田市ネットワーク連絡会 議事録

2012年12月11日（火）

10：00～12：00

於：竹駒地区コミュニティセンター

○グループ毎に分かれた情報共有会

1) まちづくり

ファシリテーター：陸前高田まちづくり協働センター 小野寺 浩樹 氏

2) 子ども・教育

ファシリテーター：日本国際民間協力会NICCO 原口 祐己 氏

3) 仕事全般／手仕事・生業（やりがい、収入）・起業・再開

ファシリテーター：陸前高田まちづくり協働センター 三浦 まり江 氏

4) 生活支援／見守り・介護予防・予防医学など含む

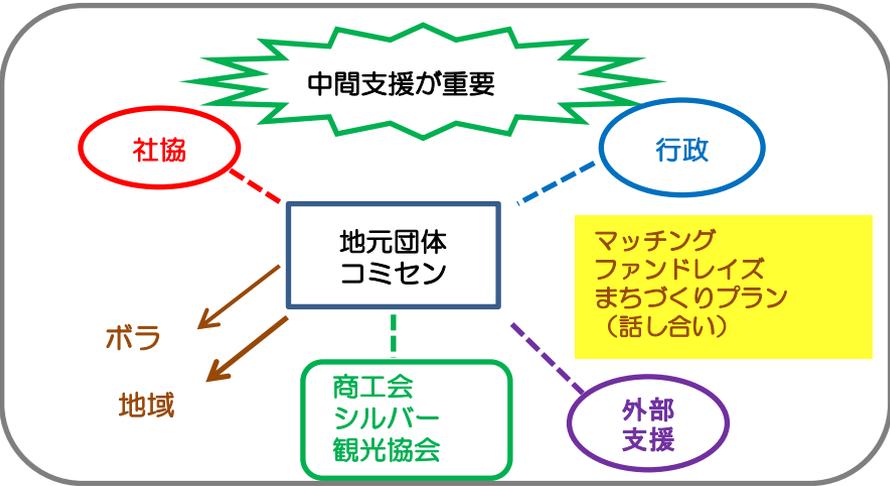
ファシリテーター：NPO法人遠野まごころネット 井上 恵太 氏

まちづくり

今後ボラを受け入れるために
住民ニーズ → ボランティアニーズ

前回の振り返り…

ボランティアニーズに応えるには



⇒具体的に動き出します！！

※復興サポートステーション（1/15～開所）

- ・災害ボラセン閉鎖後に代わるものとして
11/30市長などと面会して決定→気仙町 諏訪神社が目印

社協枠 営利（起業）につながるものはNG
他団体からの提案はできない

- ・やる気のある人たちを支援する
12/15～ボランティアの受付開始

サロン活動

- ・社協は災害ボラセン → 社協ボラセン
社協の枠内で市民からのボランティアを受け入れる
- ・復興サポートステーションは外を受け入れなんでも受ける

『高田のことはここに聞けばいい！』という場
インターネットを使えない人たちのために情報伝達ツールを工夫

- ・いっぱいあった窓口で1つにしたい！
（窓口が2つになるイメージがある）

商工会、シルバー、観光協会 などとのパイプもあるといい

社協領域
福祉系ボラ

社協外領域
まちづくり系全般ボラ

病院としても
2領域必要

高田HP

- ・冬季支援、女性会が協力
- ・バスとかの移動
- ・段差、凍結による転倒事故
- ・道路向かいによる薬局の横断立ち合い

仮設に住んでいて情報が
ない/聞ける場が欲しい
・〇〇できる人
・〇〇の情報
どこにお願いすれば…

・移転時期未定
予定地決定済
機能/規模はこれから議論

男性が外に出ない
長洞の赤提灯
呑み会には出てくる

住田の事例を参考にして下さい

住田では関係団体の集まりは週2回

- ・フットワークが軽い
 - ・住民参加が多いので実働に発展
 - ・意識が高い
- ※みなしニーズが隠れている

情報をどう発信するか？

紙ベースのものは全戸配布→市外の方にも
みなし仮設は漏れがあるのでどう対応するか？

メディア利用…Aid TAKATA

住民に必要なニーズは分かりやすく→どんな活動かわかる

まずはお電話ください！！

- とりあえず話しを聞きますよ…の姿勢
- 知らないことがあっても、丁寧な対応と熱意をもつこと
- 1つの電話に真剣に向き合う
- わからないことがあったら連絡会の皆さんにお電話します

建物・事務所・人財

支援して下さい

ボランティア求人票 (イメージ)

陸前たがだ八起プロジェクト 子どもと遊ぶボランティア募集

- 体力に自信がある
- きちんと子どもをほめられる/しかれる
- 夢をもっている
- 自炊・寝袋でOK
- また来られるか

求む!ボランティア!!
子どもたちと一緒にフットサルをします!そこで...

- 1.事前告知のため、仮設の方とお話しつつお誘いできる話術をお持ちの方(単日)
- 2.体力に自信があり、子どもが大好きな方
- 3.積極的/継続的に関わる気持ちのある方

花巻結っこ 求人票

- 「私の木プロジェクト」(継続)
子どもたちと木を植える→将来は街路樹
- 「こども冒険キャンプ」(短期)
学生スタッフ募集中→条件:子ども大好き

求む!ボランティア 子どもプログラム

- ①継続的に参加できる方(毎週土曜日:3月末まで)
 - ②雑務(備品整理等)を嫌わない方
 - ③子どもに関わる活動(ボランティア含む)の経験のある方
 - ④特技のある方(絵、歌、楽器、など)
 - ⑤ユーモアのセンスのある方
 - ⑥看護、心理系の知識/経験があれば尚可
- 絶対条件:陸前高田の子供たちと関わることへのモチベーション
NICCO

求む!ボランティア受入先
冬休み高校生がボラバスで高田に!
同年代の交流会は?
高校生に何ができますか?
高校生の企画を受け入れてもらえますか?

<現在ボランティアを受け入れている窓口>

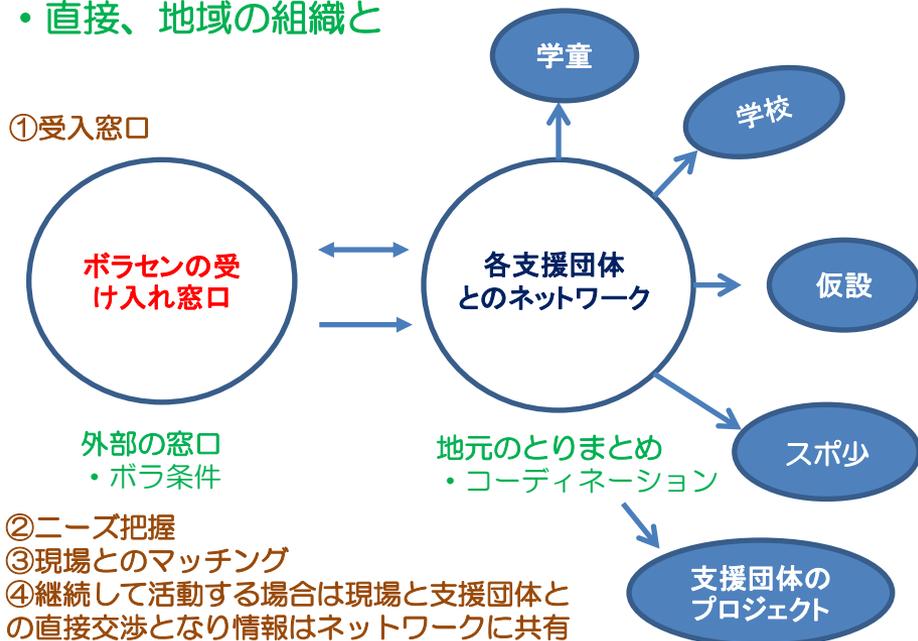
• ボランティアの受け入れ窓口

→ボラセンは支援したい団体と支援している(必要としている)団体、個人をつなぐ機能を持ってほしい。

• 各支援団体 (各支援団体のネットワーク)

→各支援団体が行っている事業を集約し、そしてマッチングする機能を持ってほしい。
(子ども教育であれば子ども支援ネットワーク会議など)

• 直接、地域の組織と



①受入窓口

ボラセンの受け入れ窓口

外部の窓口
• ボラ条件

②ニーズ把握

③現場とのマッチング

④継続して活動する場合は現場と支援団体との直接交渉となり情報はネットワークに共有

地元の人も —— (マインド)

地元の子供たち達だけでなく
ボランティアに来た子も育てる

受け入れてくれるかどうか?

どんなプロジェクトなら? ←

求人票

情報を集める ←

仕事全般

まとめ

何かをはじめたい 出来る範囲に限られる

ボラ 事業計画のサポート
行政・銀行 資金、補助金、融資

・ボランティアがほしい人
何がなか—内部から発信
情報のヒアリング/精査/ルール

点としてのボランティア
↓
面としてのボランティア

発信元
体の方が入りやすい

◆イカダづくりなどの支援
はどこから入ってくるのか

◆復興と生業の区別

新ボラセン

受入窓口/フィルター
外部からのボランティアニーズにこたえる
道具が揃わない

まず
ルール
づくり

○高田といえば？

- ・海側 → 漁業
水産加工場 気仙沼/大船渡
- ・内陸 → 林業/農業
- ・観光 特産が思いつかない…

「ボランティアしたい」

◆専門性の高い分野
どういう部分の人が欲しいか

↓
明確に/情報発信/公平性

- ストーリーがあると
 - ・特産/名物
 - ・その土地のもの
- 公平性をもって伸ばす

住民の声 情報発信
ツール

何に困っているか
明確にすることで
支援しやすい

○これからのボランティア

- ・どういう部分(内容)が必要か
- ・何に困っているか
- ・ストーリー性をもったもの

住民の声
内部から発信していくこと

公平性をもった情報発信

- ・地元の雇用を奪わない/守る
- ・受け手側に安心感を与える
- ・窓口/発信元は1つの方が分かりやすい

○社協ボラセンに代わる新VC

- ・外部とのつながり
- ・情報の精査/発信/収集] 担ってほしい
- ・フィルター機能 ←

内容によって
例えば【行政(市/県)ハローワーク]
とかに振り分けて先とつなげる
ちゃんとつなげる
ネットワークをつくること
(投げるだけにしない)

○情報収集/発信のルールづくり

ルール

- ・変なトラブルに巻き込まれない
- ・地元の雇用に悪い影響を与えない
- ・グレーゾーンは広く

「もう行きたくない」
ではなく
「また行きたい!!!」
と思ってもらおうこと
大事

本来雇用でまかなう
部分もある

人の仕事をとらない
(地元の雇用をとらない)

働く場所がない
↓
人口流出

◆人がいなくなったら復興ではない
働けるところをつくるのが大事!

◆ボランティアをしたい人(これから)
→選択ができるように

生活支援

◎生活困窮に陥ってしまう方をどのようにして救うか？

・盛岡での取り組み（くらしのサポートセンター&SAVEWATE）
→食料の供給など？

・コールセンターでのSOSを繋ぐ仕組み。
→高田に特化というのではないが、まごころのコールセンターは始動。

※沿岸全体的に見て、繋がりがなくなり疎遠になってしまった地域は特に必要性がさげられる。

→高田はコミュニティがしっかりしている印象。
ただしゼロとは言えないだろうから不必要というわけではない。

・人の流動が起こっている。引っ越し、転出など。
生活困窮に陥ってしまっている人は内陸に多いともいわれる。
（←地縁から離れてしまったことによる・・・）
外から帰ってきている人も多い。内陸は情報がない！

◎実際の仮設の現状

・仮設によって、構成さまざま。
とある仮設では、くらし心地の良さは程よく、
また支援が来ても日中対応できないなどの現状。

・支援の範囲とは？
→今までできていたことができなくなることで困る事。
支援者一辺倒でなく住民の方、地元の方と何ができるか？

・実際何が足りていないかという・・・
物よりも心というか、ひきこもりにならないための場づくり。
お茶っこサロン？参加者が固定化している…

◎見守る仕組みについて

「お茶っこ」をしても来ない人がいる
→理由がある／なかなか出られない、行きづらい、被災者じゃないけど
行ってもいいのか？あるいは、特定のサロン（いわて生協主催、
誰でも参加可能の手芸教室など）だから出る、など。

・支援のある状態が普通ではない→もともと気の合う茶飲み友達が集まって「お茶っこ」する、というのが健全。「お茶っこ」するから来なさいよ、というものではない。いつかは支援は離れなければならない。

・かと言って、待ちのコールセンターではなく、こちらから仕掛けるようなものにしたい。地元の資源を活かしたい
→例：ちょっとしたお手伝いに地域通貨
システム化の実例（女川／「リアス」）

・情報を持つ生活支援相談員や保健師さんとの車座で話す機会があるといい。正式な会議でなくても。

※ちなみに大船渡では繋がりが割とうまくいっている。どうして？

→社協・GOVの全体会議→NPOやNGOに降りてくる
→ボランティアの数が他と比べて少ない

<住民、行政、団体に対して提案できること>

市・社協 ⇒

とは、フリーミーティングで情報共有
例：未来図会議→高田の医療を話す場
復興支援入口だったけどバックアップの方がベター

住民 ⇒

「こういうものがある」ということを”届ける”
ために必要なことって？

- ・行政
- ・社協
- ・支援団体が利用しているもので活用／利用できること
- ・部落会報を作る
- ・回覧板

*フリーミーティング

：陸前高田市役所生活推進課主催、未来図会議を踏まえ、
テーマを限定しないミーティング

*陸前高田市医療保険福祉未来図会議（未来図会議）

：同上主催、陸前高田市の医療システム作りについて話し合う場